

琉球大学学術リポジトリ

米作 日本一と沖縄一 (1)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新城, 長有 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20390

米作

日本一と沖縄一

琉球農林協会は去った9月26日に、1960年度の米作沖縄一を発表しました。反当り4石3斗4升(783.75リットル)で、これまでの最高記録を9升3合も上回る成績でありました。

政府や農林協会の話によりますれば、本年度から、朝日新聞社が主催している米作日本一競作会に、加盟することですから、努力に努力を重ねて、良い成績を上げられるよう期待しております。

その機会に、米作日本一がどのような方法でなされているか、又沖縄の稲作技術をどう改善していかなければならないのか、などの問題について、共に考えて行きたいと思います。

米作日本一競作会がはじめられて、ことして13年になりますが、そのあいだ、毎年のように記録が更新され一昨年あたりから、6石を突破し、社会からは、もう米の自給も大丈夫だと、大いにしようさんされています。

まず、米作収量日本一の審査法を申し上げますと、日本を8つのブロック、即ち、北海道、東北、北陸、関東、山、東海、近畿、中国、四国、九州のブロックに分け、ブロック内の各県から、それぞれ県一を出品して、ブロックを決めます。このブロックが中央へ報告され、八つのブロックが比較検討されて、日本一が決まるのであります。

収量日本一の出た回数を、各ブロック毎に申し上げますと、東北が1回、北陸7回、四国2回、九州1回の計11となっています。今までに、収量日本一を7回も出した北陸地方を中心にして、北又は南へ行くにつれて、その回数の減っているのは、仲々興味深い問題であります。

さて、沖縄が米作日本一競作会に加盟した際は、おそらく九州ブロックに包含されるものと思いますから、日本一と沖縄一を比較するよりも、九州ブロックと比較

した方が有意義に思えます。

まず、九州ブロックを出した県名と回数を調べてみますと、福岡4、佐賀3、熊本1、宮崎3回となっております、これまでにブロックを出していない県は、大分、長崎、鹿児島島の3県であります。

九州ブロックと沖縄一の収量を比較しますと、1957年、九州一が4石8斗、沖縄一が3石7斗で、沖縄が1石1斗の減、58年は九州が4石5斗、沖縄4石2斗で、その差が3斗、59年は九州が5石4斗で沖縄は3石8斗でその差が1石6斗でありました。

一昨年までの成績で、九州一と沖縄一を比較しますと、毎年沖縄一が約1石の減収となっております。

それでは、沖縄から九州一を出すのは不可能なことなのでしょう。私は九州一なら沖縄からすぐにも出せると確信しております。

去年沖縄一の記録を作った人は、羽地村の大城さんで4石3斗4升でありました。しかし大城さんの稲穂は、75%が稔実し、残りの25%はシナでありました。大城さんの管理が、もう少し良かったなら、稔実率をあと10%ひき上げるのは容易なことだったと思われ。稔実率が75%から85%になりますと、収量は5石となり、稔実が100%なら5石8斗の収量になります。去年の大城さんの作柄のまま、稔実率を高めるだけで、やすやすと九州一になすことが出来ます。

この25%のシナは、幼穂形成期当時から収穫までの間の、色々な悪い条件が組合わされて出来たものですが、沖縄の稲作指導者や農家の方々には、完全な穀になるべきイナツブがどうしてシナになったのか、あまり気を配っていないようであります。

しかし、このシナを手のひらに乗せて、じっくりと観察し、さらに少々の薬品さえ使えば、このシナがいつごろの悪い条件で出来たのか、はっきりすると思います。(つづく)

(新城長有)